



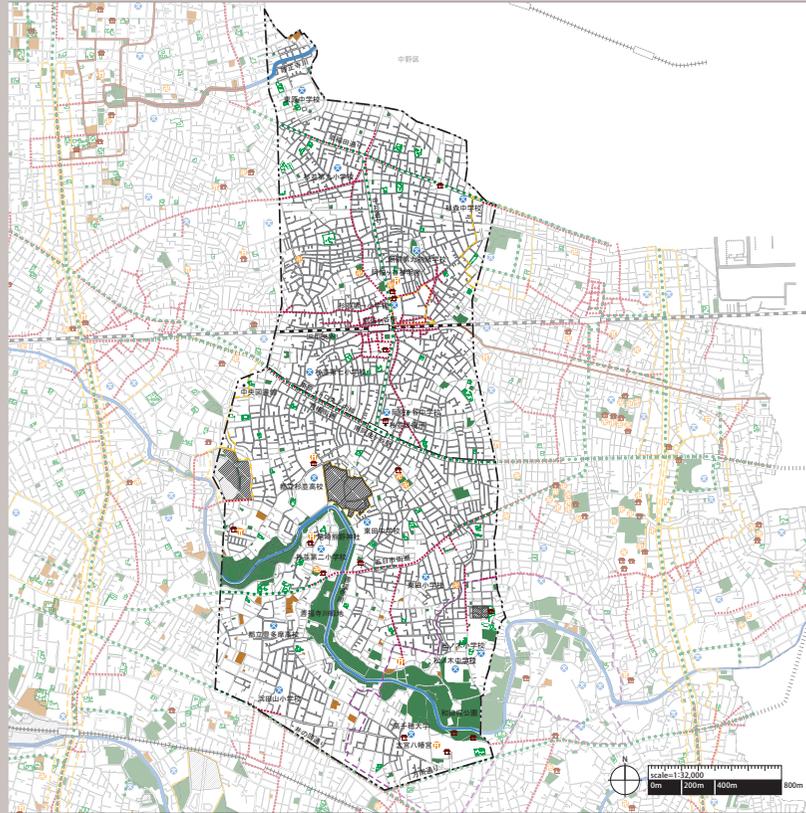
- 下井草一丁目～二丁目
- 阿佐谷北一丁目～六丁目
- 本天沼一丁目
- 阿佐谷南一丁目～三丁目
- 成田東一丁目～五丁目
- 成田西一丁目～三丁目
- 浜田山四丁目
- 大宮二丁目
- 松ノ木一丁目～三丁目
- 梅里二丁目

中杉通り

アサガヤ

阿佐谷

4 阿佐谷地域



凡例	
	公園・運動場等
	河川、玉川上水
	農地
	屋敷林
	住宅団地
	地区計画
	風致地区
	街路樹
	遊歩道・散歩みち
	商店街
	寺社
	文化財
	学校施設

歴史

この地域は、江戸時代、北側は阿佐ヶ谷村、南側は成宗村や田端村であり、明治22年(1889年)に高円寺村、馬橋村、阿佐ヶ谷村、天沼村、田端村、成宗村の6村が合併し、杉並村となりました。当時は青梅街道沿いに農地や雑木林に囲まれて農家が点在する農村地帯でした。

明治22年(1889年)に甲武鉄道(現在のJR中央線)が開通し、大正11年(1922年)に阿佐ヶ谷駅が開設されました。また、大正10年(1921年)に青梅街道に堀之内軌道(戦後の都電杉並線)が開通しました。

大正12年(1923年)に起きた関東大震災後、住宅地として急速に発展し、大正13年(1924年)に杉並町になりました。

用途地域*

早稲田通り、青梅街道、五日市街道及び中杉通り沿道などは、商業地域*及び近隣商業地域*です。その他の区域は、第一種低層住居専用地域*などです。

地域の北東側は、木造住宅が密集しているため、東京都建築安全条例による「新たな防火規制区域*」に指定されています。また、地域の南側は、土地区画整理事業を施行すべき区域*及び和田堀風致地区*となっています。

景観要素

生活的要素

地域の北側は、比較的小規模な住宅が密集しています。青梅街道の南側は、共同住宅や大規模・小規模の住宅が混在しています。浜田山周辺は、比較的ゆとりある土地利用が行われています。

阿佐ヶ谷駅、南阿佐ヶ谷駅周辺は、商業施設や飲食店のほか、区役所をはじめ多くの公共施設が集まり、にぎわいのあるまちなみが形成されています。

自然的要素

地域の北端を東西に妙正寺川が流れています。また、中杉通りのケヤキ並木は、多くの区民に愛着をもたれ、区のシンボルとなっています。

また、地域の南側を東西に善福寺川が流れています。加えて、農の風景の保全と都市景観の向上を図ることを目的とした、成田西ふれあい農業公園があります。

公共的要素

道路としては、東西に早稲田通り、青梅街道、五日市街道、井の頭通りが通っています。また、南北には無電柱化が完了した中杉通りが通っており、電柱や電線のないすっきりとした美しい景観に生まれ変わっています。

鉄道としては、中央を東西にJR中央線が走り、阿佐ヶ谷駅があります。また、杉並区役所の隣には東京メトロ丸ノ内線南阿佐ヶ谷駅があります。

公共施設としては、令和4年(2022年)3月に、阿佐谷地域区民センターが移転し、隣接する阿佐ヶ谷けやき公園とともにリニューアルされ、屋上公園も新たにできたことから、より美しく、人々を楽しませる集いの場となっています。

また、阿佐ヶ谷駅北東地区において、防災性・安全性の向上と駅前にはふさわしい都市機能の強化、阿佐谷の歴史を伝える景観づくり、みどりと住環境の調和したまちづくりを推進するため、平成31年(2019年)3月に「阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくり計画*」を策定、令和2年(2020年)3月には「東京都都市計画阿佐ヶ谷駅北東地区地区計画*」の都市計画決定を行いました。これに伴い、杉並第一小学校は、周辺地域とも調和した、子どもたちが輝ける学校として新たに整備されることとなりました。

文化的要素

地域の人たちの手で大切に続けられている「阿佐谷七夕まつり」や「阿佐谷ジャズストリート」などのイベントが開催されています。また、12月上旬から1月下旬には、駅南口広場に大きくそびえたつアケボノスギにイルミネーションが灯され、季節の風物詩となっています。

- 高円寺北一丁目～四丁目
- 阿佐谷南一丁目～二丁目
- 高円寺南一丁目～五丁目
- 和田一丁目～三丁目
- 堀ノ内二丁目～三丁目
- 松ノ木二丁目～三丁目
- 梅里一丁目～二丁目

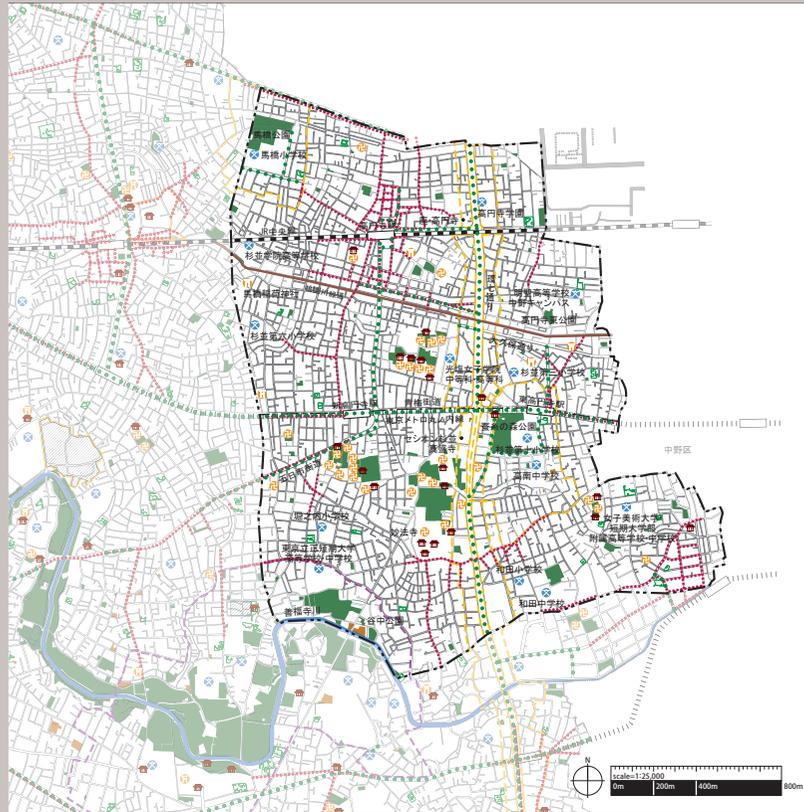


高円寺北三丁目 セントラルロード

高円寺

コウエンジ

5 高円寺地域



凡例	
	公園・運動場等
	河川、玉川上水
	農地
	屋敷林
	住宅団地
	地区計画
	風致地区
	街路樹
	遊歩道・散歩みち
	商店街
	寺社
	文化財
	学校施設

歴史

この地域は、江戸時代、北側は高円寺村や馬橋村、南側は和田村や堀ノ内村でした。明治22年(1889年)に北側の2村と阿佐ヶ谷村、天沼村、田端村、成宗村が合併し、杉並村となり、南側の2村と和泉村、永福寺村が合併し、和田堀内村となりました。当時は青梅街道沿いに農家が点在する農村地帯でした。大正12年(1923年)に起きた関東大震災後、住宅地として急速に発展し、杉並村は大正13年(1924年)に杉並町に、和田堀内村は大正15年(1926年)に和田堀町になりました。

明治40年(1907年)から43年(1910年)にかけて東京市中から福寿院など4寺院が移転するなど、寺院が集積する寺町が形成されました。

明治22年(1889年)に甲武鉄道(現在のJR中央線)が開通し、中野に隣接する高円寺から宅地化が進み、大正11年(1922年)に高円寺駅が開設されました。また、大正10年(1921年)に青梅街道に堀之内軌道(戦後の都電杉並線)が開通しました。

用途地域*

高円寺駅周辺、青梅街道及び環七通り沿道などは、商業地域及び近隣商業地域です。その他の区域は、第一種低層住居専用地域などです。

地域の北側は、木造住宅が密集しているため東京都建築安全条例による「新たな防火規制区域*」に指定されています。また、環七通り沿道は、沿道地区計画*が指定されるなど、道路交通騒音の防止と商業・業務機能の集積が進んでいます。地域の南側は、和田堀風致地区*となっています。

景観要素

生活的要素

比較的小規模な木造住宅が密集している住宅地です。特に、駅周辺は狭小敷地や賃貸の共同住宅が多く集まっています。

高円寺駅、東高円寺駅及び新高円寺駅周辺は、商業施設や飲食店などが集まり、にぎわいのあるまちなみが形成されています。

自然的要素

蚕糸の森公園や善福寺川流域の和田堀公園などがあり、みどりのオープンスペース*が点在しています。

地域の南端を東西に善福寺川が流れています。

公共的要素

道路としては、南北に環七通り、東西に北から早稲田通り、青梅街道が通っています。

令和4年(2022年)7月には、東京都市計画道路補助線街路第221号線について、東京都から都市計画事業の認可を受け、事業を開始しています。

鉄道としては、北側を東西にJR中央線が走り高円寺駅が、中央を東西に東京メトロ丸ノ内線が走り、東から東高円寺駅、新高円寺駅があります。

公共施設としては、令和5年(2023年)8月に施設改修工事を経てリニューアルオープンしたセッション杉並があります。セッション杉並には、ホール、展示室等が整備されており、区の文化教育活動拠点として利用されています。また、区民の各種届出や手続きができる高円寺区民事務所が併設されています。

令和5年(2023年)10月には、旧杉並第四小学校の校舎を改修した「未来をつくる杉並サイエンスラボ IMAGINUS」がオープンし、次世代型科学教育の新たな拠点となっています。

文化的要素

古着屋やライブハウスなどが集積しており、若者や来街者が多く集まるまちとなっている一方、高円寺駅南側の寺町をはじめ、妙法寺などの寺院が集積しています。

また、春の「高円寺びっくり大道芸」、夏の「東京高円寺阿波おどり」、秋の「高円寺フェス」、冬の「高円寺演芸まつり」と一年を通じて個性豊かなイベントが開催されています。また、杉並芸術会館(座・高円寺)は、活気に満ちた文化芸術の活動拠点となっています。